



# 学校だより

1月号

令和5年12月25日  
足立区立舎人第一小学校  
校長 澁谷あゆみ

## 「読書のよさ」

図書担当 宮下 雅

皆さんは、原作の「本」派ですか？「映画」派ですか？私は、本を読んでからそれが映画化された作品を見ると、自分の中のイメージと乖離しており、がっかりしてしまうことが多いです。しかし、ある児童は「漫画の大好きなキャラクターを映画で見たとき、想像の声と全く同じで、夢を見ているようだった。」と話してくれたことがあり、本で感じたイメージの答え合わせをするように映画を楽しむ人もいるのだなと感じた経験があります。やはり、読書は自分のペースで、自分の世界で物語を味わうよさがあるのではないかと考えています。学校では勉強と同じように、子供たちに読書を勧めています。その理由はいったい何なのでしょう。

ベネッセ教育総合研究所が2023年に行った「子どもの生活と学びに関する親子調査」のデータからは、面白い研究結果が分かりました。読書時間が長い子供は、理解や思考、表現などの活動において「得意」と自己評価する傾向があることが分析されました。つまり、読書をする子は自分の能力に対する評価が高いということなのです。更に、ニュースへの関心や自分への自信が高まり、将来の目標などが明確だという傾向もみられたそうです。自分の思いを文章にまとめたり、論理的に考えたりすることはこれから先の子供たちの人生に欠かせない能力です。その能力が高まるだけでなく、自分の力に自信がつくということに驚きました。自分への自信が高まるということは、自分の世界が広がることだと思います。読書をして自分の世界が広がると、きっと様々なことを楽しんで取り組めるようになるのではないかと感じているので、そんな児童を育てられるよう、努めていきたいです。

1月は読書月間です。図書委員会が読書をもっと楽しんでもらえるようにたくさんの工夫をしています。ご家庭でもぜひ、お子様と一緒にじっくり本を読んでみてください。

【引用文献】ベネッセ 小学生から高校生の読書に関する7年間の追跡調査データ

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001192.000000120.html> (2023年12月2日閲覧)

### 〈6年生からの読書についての報告〉

深く考える学習を実践している6年生は「読書どうとく？」という授業を行いました。なぜ読書をしなければならないのか、読書をするとうどんない事があるのかをみんなで考えました。読書嫌いの児童が読書好きになっているケースが多く、なぜ本が嫌いだったのかを子供に聞いてみると「文章を読んで自分で想像するのが苦手。面倒くさかった。」「人の話や意見に興味がなかった。」という意見が多く出ました。そんな子たちが今、読書を通して自分の世界で想像を膨らませたり、人の意見に興味をもったりしているようです。手を挙げられなかったのは、言葉が出てこなかったからで、本を読むようになって手が挙げられるようになったという意見もありました。読書がもつ力を再認識した学習になりました。